

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	56	学校名	掛川東高等学校	校長名	樽松一樹
------	----	-----	---------	-----	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自律と自立の力を育成するため、高い規範意識と、人としての高い品性を涵養する	・「自律と自立」の意味について考え、行動することができた」と答える生徒の割合80%以上 ・「気持ちのよい挨拶、制服の端正な着こなしができた」を肯定する生徒95%以上 ・「ルールやモラルの意義について考え、主体的にルールやモラル守ることができた」と答える生徒の割合80%以上	96.4% 挨拶 94.0% 制服の着こなし 99.0% ルールモラル 98.5%	A	【生徒課】 「気持ちのよい挨拶ができた」が成果目標に届いていないが、それ以外の項目については、成果目標を大きく上回っている。
		・「次の予定を考え、時間を見て行動することができた」と答える生徒の割合80%以上	96.9%	A	【生徒課】 昨年度よりも自主的に行動することができた生徒が増えている。（令和4年度：95.3%）
		・教員の指導前にポートフォリオが作れた生徒50%以上	50.2%	B	【各学年】 1年49.5%、2年59%、3年41.9% 3年部は、ポートフォリオ作成について言及することができなかった。 2年部は、継続した指導により検定等の結果について入力が行えた。 1年部はその都度入力を促すなどして全員入力をするすることができた。

イ	主体的に学ぶ習慣を確立し、社会の変化に柔軟に対応できる教養を身につける	・他者の授業見学を行い、自らの授業改善を行った教員80%以上	78.6%	A	【教務課】 ・業務多忙の中、78.6%という数値は一定の評価はできるが目標には届かなかった。 ・自主学習に取り組める生徒が増えていることは喜ばしいことであるが、学力の向上との関連にも検証が必要である。 ・研修等による授業改善の結果が出ている。生徒の自己有用感の醸成にも寄与している。 ・ここ数年の研修と環境整備の成果である。この水準を継続していきたい。
		・「週5日以上自主学習に取り組めた」とする生徒60%以上	61.9%		
		・授業がわかり、学力が伸びていると感じる生徒75%以上	89.0%		
		・学習方法、学び方の改善を生徒に提供した教員75%以上	96.4%		
イ	主体的に学ぶ習慣を確立し、社会の変化に柔軟に対応できる教養を身につける	・「情報セキュリティを意識した活用を心掛けた」と答える生徒90%以上	98.5%	A	【図書情報課】 全体的に、意識した活用を行っている。今後も呼びかけを行っていく。あまりあてはまらないと回答した生徒が若干名いるため、その点が気になる。
		・ICTを活用する授業を行う教員90%以上	96.4%	A	【教務課】 ・機器の使い方に個人差はあるが、積極的に使う教員が増えている。
		(総合的な探究の時間について)・年度内に計画を実行していく中で、内容についてその都度検証し、必要な見直しをする。	3年間を通じての大枠は設定できた	A	【教務課】 ・1年次でミニ探究、2年次で本探究、3年次で論文等によるまとめを行うという流れができてきた。ただ、外部との連携が増える中、一部の教員に業務の集中がみられるので平準化が必要である。
ウ	社会の中で働く自分の理想像を見つけ、自己の可能性に挑戦する進路を探究する	・「主体的に将来を考えた」と回答した生徒100%	88.5%	A	【進路課】 ・学年に応じた進路意識の高まりをサポートできた。 3年生は91.1%である。3年生の担任は複数回の3者面談を実施し、手厚い指導を行った。 ・120件を超える小論文・面接指導を職員全体で指導できた。
・「本校の進路指導に満足している」生徒が80%以上	87.8%				
・進路相談、小論文、面接指導等に関わる教	96.4%				

様式第3号

		員 100% ・各種検定や資格取得に挑戦した生徒50%以上	48.0%		・昨年度 62.3%から大幅に減少した。今年度、英語検定の会場校から外れたことも影響したと考えられる。
エ	集団の中で切磋琢磨し、自他を認め合えるたくましい心身と豊かな感性を育成する	・「学校生活に満足している」とする生徒90%以上 ・「学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動のいずれかに積極的に参加できた」と答える生徒の割合80%以上	92.6% 97.1%	A	【生徒課】 昨年は「学校生活に満足している」とする生徒が91.1%であったが、今年度は増加している。 「学校行事、HR活動、生徒会活動、部活動のいずれかに積極的に参加できた」は目標は達成しているが、達成状況が昨年よりも若干減った。原因の解明と対策を検討したい。
		・授業を利用して外部の専門家を招いての講演会を年間2回以上開催し、人権意識の向上を図る。	11月に全体で1回、外部講師を招いて実施したが、2回目を実施できなかった	B	【保健相談課】2年に1回は全体で講演会を実施している。それ以外の年度は授業の中で実施している。昨年度は法務局にお願いして実施した。
		・毎月1冊以上読書をした生徒および教員80%以上	生徒 63.7% 教員 57.1%	C	【図書情報課】朝読書のための生徒が多いと考えられる。教員も含め、読書習慣を身につける工夫が必要と考える。80%達成は厳しい数字かもしれない。
		・「日常生活の中で、各自の役割を果たし、人のために行動できた」とする生徒80%以上	95.9%	A	【生徒課】生徒一人ひとりの意識が向上し、他者に対する思いやりや気配りが以前よりもできるようになった。
オ	学校外との連携を大切にし、安心・安全で信頼される学校改善を行う	・「進んでボランティア活動に参加できた」とする生徒50%	53.1%	A	【生徒課】昨年度は34.7%だったので、大幅に向上した。コロナ禍からの脱却により活動しやすくなったと思われる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA行事等への参加率50%以上 ・ホームページ等で情報発信を行った教職員75%以上 	<p>PTA総会出席数 290/616・47%</p> <p>情報発信を行った教職員 92.9%</p>		<p>【総務課】PTA総会参加者は昨年比1割増。その他の行事への参加は概ね達成できた。</p> <p>【図書情報課】 ホームページ・X(旧Twitter)で多くの発信を行った。C-ラーニングに関しては、連絡に既読が見つからない場合もあるため課題もある。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「掛川東高校の教育に満足している」との回答75%以上 ・保護者及び生徒のC-ラーニングの登録率100%、利用率90% ・校外の個人・団体と関連する教育活動をした教員50%以上 	<p>登録率100%</p> <p>利用率99.7%</p>		<p>A</p> <p>【管理職】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報戦略が奏功したこともあり、掛川東高校に対する中学生、保護者等、地域からの評価が高まり、期待も大きくなっている。期待の高まりに応じて、教育活動や教員に求められる水津も高くなるので、これを好機と捉え、相互尊重、相互承認の生徒指導、学習指導、進路指導につなげていく。 ・探究学習における企業等との連携が13団体となった。県事業によるライフデザイン講座、掛川市議会等、地域連携は拡充している。 ・探究学習での企業コラボにおいて、生徒がデータ分析等に基づいたアイデア出しができるよう、静岡産業技術専門学校と「情報I」の協働授業を実施した。今後も教科横断的な学習に資する外部連携を進め、学習の質を高めていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に信頼できる先生がいる」とする生徒80%以上 	<p>生徒のアンケートによると86%である</p>		<p>A</p> <p>【保健相談課】昨年度85%、今年度86%であった。この数年間は85%前後で推移している。何でも相談できる体制をつくりこの状況を維持していきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の事故発生件数ゼロ ・施設に関する事故発生件数ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に関する事故発生件数ゼロ 		<p>A</p> <p>【管理職】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車椅子で生活する生徒の大規模地震発生時の避難訓練を実施。訓練時の画像を用いたマニュアルを作成し、危機管理マニュアルに掲載した。予見可能性を踏まえ、必要な装備、体制を整えた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・監査等の指示・指摘事項ゼロ 	<ul style="list-style-type: none"> ・監査等の指示事項等ゼロ件 		<p>【事務室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の危険個所や改善要望を聴取するため報告シートを作成し改善が必要な個所を特定、計画的に修繕等を実施し、施設に関する事故を防止した。 ・常に内部統制を効かせ協力し合い、誤りのない事務処理ができた。
カ	生徒、教職員が、活力ある学校生活を送ることができる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された時間内での会議80%以上 	職員会議、運営委員会は、すべて設定時間内で終了した	A	<p>【管理職】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、運営委員会は、すべて設定時間内で終了している。 ・先進企業が社員の雑談からのアイデア創造を重視していることを参考に、教員が気軽に集いやすい空間（Chat Room(仮称)）を職員室内に開設。教員の交流を促進し、心理的安全性の高い学校にしていく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・授業等の始業・終業、遅刻者ゼロを目指す。 	生徒 96.9% 教員 96.4%	A	<p>【教務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は休み時間とのメリハリがつけられている。教員も昨年と比して改善できた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「下校時刻を守ることができた」と答える生徒の割合80%以上 	98.1%	A	<p>【生徒課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 成果目標を大幅に超えて達成できた。引き続き下校時刻を守れるような働きかけをしていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・週1回定時退勤できた教職員70%以上 ・(部活動ガイドラインの)「趣旨を踏まえて活動できた」と答える教員の割合100% ・負担感、多忙感が改善されたと感じる教職員50% 	定時退勤 64.3% 部活動ガイドライン 96.4% 負担感多忙感改善 57.1%	A	<p>【管理職】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル採点を利用する教員の割合が85%に向上。スクールDXの推進により、業務の効率化が進み、教員全体の時間外勤務時間は、前年比、月平均で約3時間減少している。 ・部活動指導をする教員の時間外勤務の超過傾向は続いている。メリハリのある活動計画の作成等に取り組み、改善を図る。